



## 法人税減税で企業が元気になり、労働者の生活が良くなる？

経団連は法人税の減税、消費税増税を要求している。そして、民主党は「法人税減税と抱き合わせで消費税増税」を提起。過去の自公政治は、消費税を法人減税に回して来ました。

財界側は法人税減税で企業が元気になるかのように云っていますが、どうでしょうか？会社を運営するとは、労働者を雇い、材料を買って、加工して売って儲けることです。

売り上げ合計からコスト(労賃、健康保険料等の会社負担分、材料費、電気代や機械の費用、固定資産税等)を差し引いた残りが利益となります。その利益に対して、法人税がかかります。会社が儲かったからと云って、利益の中から労働者にボーナスが払われることはありません。労働者に払うボーナスは毎月の賃金と同じくコストです。賃金を上げたり、ボーナスを増やすと、それらはコストなのでコストが増えることになり、利益が減ります。

さて、売り上げ合計からコストを差し引いた残りの利益に法人税が課せられます。そして、法人税を払った残りの一部は配当金として株主に払われ、一部は役員の賞与になります。

ですから、法人税が減ると、役員賞与や配当に回す金が増えるのです。法人税が減ると会社が元気になるのではなく、社長などの役員や株主の金回りが良くなるのです。更に、役員賞与や配当を払った残りは、内部留保になります。

その内部留保を労賃の安い海外に投資すればコストが安い工場を作ることができ、利益を更に増やすことが出来ます。そして、日本の工場労働者の仕事は減り、国内の景気は悪くなります。

「法人税を減らして、消費税を上げる」財界のアイデアに皆さんはどう思われますか？



開拓の碑

一九九二年の夏、野辺山の電波天文台を見学に行った時に、八ヶ岳山麓、清里に泊まりました。清里と云えばおしゃれなりゾート地。でも、その地は、戦後、満州などからの引き揚げ者が血のにじむ思いで開拓した土地だったのです。「食糧増産」のかけ声、他に仕事もない。農地も勿論持っていない。そんな中で雑木林を切り開いて作った農地・・・でも、それは今はベシオン村や別荘村になっていました。そして、その開拓の苦勞を伝えるのは、この石碑だけなのでしょうか？